

内務省が、警察・厚生・労働・地方自治も仕切っていた時代

警察の取り締まりを前提に、警察が福祉施策を立案推進

現代には、最低生活費を保障する生活保護法があります。

前回夜間学校ニュースについては、「乞丐」をどう

読むのかという質問がありました。

私にもよく判りません。辞書的には多分「きつ

か」なのですが、当時の人が「きつかい」とよんだ

のか。あるいは「コツジキ、乞食、こじき」と読ん

だのか、判断できる材料を持っていません。

大正5年に岐阜警察部長が県下の各警察官署

長宛に出した文章では、「乞丐の救済並に取締に

関しては、総て乞丐を窮民と称する」と書かれて

います。東京・大阪で使われていた「浮浪者」の代

わりに、岐阜では「乞丐」を使っていたが、適当で

はないので「窮民」と呼ぶことにする、ということ

なのでしょう。(裏面に部分紹介あり)

当時は、厚生労働省も総務省もなく、内務省が警

察行政、地方行政、厚生労働行政も総て担ってい

ました。簡単に言えば、警察が厚生労働行政も担って

いたということになります。

ですから、県の警察部長が、病気の者は病院にか

かれるようにせよ、失業者には職を周旋せよ、随わ

いれる、と指示を出しているわけです。

徘徊する者を県内に入れてはならない、入ってきたもの

は送り返せという縄張り意識丸出しですから、現場の警察

官は、追い払いに務めたことが想像されます。大正5年6

月から12月末迄に638人、他府県に送還しています。

それでも、寺院や慈善家に依託した者15名、職業に就

かした者170名、市町村で救護中の者104名が記録

されており、「救済」活動も少しは実行されたことが分か

ります。(岐阜県内で大正5年4月の5日間で把握された

「乞丐」は936人、内340人が労働できる者で、救済

を要するとされたのは596人。ということは、ほとんど

の人については、何も為されなかつたと云うことになりま

す。また、送還された者の数からすると、間借り、仮小屋

であろうが居所のある窮民はともかく、それ以外はすべ

て送還の対象となっていたと思われま

す。以上は、百年近くも前の時代の話(とは云つても、戦

後しばらく迄は続いたのですが)。現代では、現在いる場所

に、居所や住民票がなくても、現在いる市町村で生活保

護制度を活用できるようになっています。市更相へ相談

を！(言葉:「不具」も現在は不可、「身体障害」と)

いま ねんまえ ぎ ふ けんけい きゅうみんきゅうさい とりし たいしやう じ だい じ ぜん じ ぎやうけんきゅうだんたい ぎっし
今から94年前の岐阜県警の窮民救済と取締まり＝大正時代の慈善事業研究団体の雑誌から・・・

じ ぜん たいしやう ねん がつ にちごう だい へんだい ごう
「慈善」1917（大正6）年4月30日号（第8編第4号）

きゅうみんきゅうさいなら とりしまりかた けん
1、窮民救済並びに取締方の件

ぎ ふ けんけいさつ ぶ ちやう
岐阜県警察部長

かくしよ ふ ぐ はいしつとう ため とうていぎやう む た そ じやう まこと あわれ たい し ちやうそんとうきよくしや あいはか
各署は不具癡疾等の為、到底業務に堪えず、其の情誠に憫むべきものに対しては、市町村当局者と相謀り、
おんじやう もつ ふやう みち こう ぎやう え もの たい こんせつ ぎやう さず みち こう また ぎやう む いた もの たい
温情を以て扶養の途を講じ、業を得ざる者に対しては懇切に業を授くるの途を講ぜざるべく、又業務を厭う者に対
しては、懇諭を加えて服業を強制し、尚肯ぜざる者に対しては嚴重処罰の方針を執らるべし、又素りに他府県よ
り本県に入り込み来る窮民に対しては、周密なる救護取締を為し、県内に於ては窮民の徘徊を見ざる様、別紙窮民
きゅうさいならび とりしまりほうしん もとづ これ じつこう ぞつこう よき こうか そう よう とく そ ち あいなるべくめいによりこのむねつうちやうにおよびそうろうなり
救済並に取締方針に基き、之が実行を続行し、予期の効果を奏する様特に措置可相成依命此旨及通牒候也。

おつ きつかい 物の こじき きゅうさいならび とりしまり かん すべ きつかい きゅうみん
追て 乞丐（注：キツカイ・こじき・物もらい・乞食＝コツジキ）の救済並に取締に関しては総て乞丐を窮民と
しょう いたしそうろうじやうこのむねもうしそえそうろう
称することに致候條此旨申添候、

だい きゅうみん く ぶん
第1 窮民の区分

ぎやう た もの びやうしや ろうしや ようしや ふ ぐ はいしつしや たぐい ぎやう え もの げんざいきゅうみん かんけいじやう ぎやう
1、業に堪えざる者＝病者、老者、幼者、不具、癡疾者の類。／2、業を得ざる者＝現在窮民たるの関係上業
もと じりき よ これ え もの たぐい ぎやう この もの ゆいつとしよく らん だ ふう そ ろうどう いた
を求むるも自力に依りて之を得ざる者の類。／3、業を好まざる者＝遊逸徒食して懶惰の風に染み、労働を厭い
ま じめ ぎやう つ ほつ もの たぐい い じやう ほかにせきつかいしや きつかい な せいかつ う かかわら ず そうさいそ
真面目に業に就くを欲せざる者の類。／4、以上の外偽乞丐者＝乞丐を為さざるも生活し得るに不拘、葬祭其
た せまい せきんなど ばあい もしく ぶつ じえんにちなど ばあい おい とく きつかい ふう よそお そ むれ はい きつかい な また
の他施米施金等ある場合、若は仏事縁日等の場合に於て、特に乞丐の風を装うて其の群に入り、乞丐を為し、又
これ な もの たぐい
は之を為さしむる者の類。

だい きゅうさいならび とりしまりほうほう
第2 救済並に取締方法

ぎやう た もの
1、業に堪えざる者

てきとう ふやう ぎ む しや また しんぞく こきゅうなど もの なるべくこれ ひきと びやうしや さいせいかい けんぐん
（イ）適當の扶養義務者又は親族故旧等ある者は可成之に引取らしむること。／（ロ）病者は済生会、県郡
りつびやういん そ た じぜん いん お せりやう もと ただ た ふけんざいじゅうしや や え ばあい いちじ せりやう もと
立病院其他慈善医院に於て施療を求むること。但し他府県在住者にてても止むを得ざる場合は一時施療を求むる
こと。／（ハ）適當なる扶養義務者なき者は＝（1）寺院特志家、又は適當なる民家に保護を依託すること。（2）孤
じいん また さとご よういく ぜんこう ばあい おい なるべくし ちやうそん ひ など きゅうじよ もと
児院において又は里子として養育すること。／前項の場合に於ては可成市町村費等より救助を求むること。

ぎやう え もの
2、業を得ざる者

し ちやうそんちやう ゆうりよくしや とくし か じぜん か じ ぎやうしや しょかいしやとう きやう ぎまた こうしやう こうち せいり どうろ かいしゅう もくざいばっしゅつ
市町村長、有力者、特志家、慈善家、事業者、諸会社等と協議又は交渉し、耕地整理、道路改修、木材伐出、
そのほかのこうなどできとう ぎやう む しゅうせん しゅうぎやう
其他農工等適當の業務を周旋し就業せしむること。

ぎやう この もの
3、業を好まざる者

しんたいけんぜん か そうとう ねんれい し てきとう しょくぎやう かかわら ず らん だ ふう そ ゆういつとしよく ろうどう いた
身体健全且つ相當の年令にして、而かも適當の職業あるにも不拘、懶惰の風に染み、遊逸徒食して労働を厭う
ごと やから およびぞく さんか しょう もの たい げんじゅう かいこく くわ ぜんこう れい よ しゅうぎやう も これ おう
が如き輩、及俗に山窩と称する者に対しては嚴重に戒告を加え、前号の例に依り、就業せしめ、若し之に応ぜ
ざるときは仮借なく処罰しその矯正を期すること。（4－略）

い じやう きゅう ごとりしまり しゅ ほんけんざいじゅうしや たい これ な た ふけんざいじゅうしや ほんじゅうち むか きかん いてい
5、以上の救護取締は主として本県在住者に対して之を為し、他府県在住者は本住地に向って帰還せしめ、一定の

じゅうしよ ものまた ふめい もの たい えん こ ち きかん も これ ほんけんざいじゅうしや じゅん これ きゅう ごとり
住所なき者又は不明の者に対しては縁故ある地に帰還せしめ、若し之なきときは本県在住者に準じ之が救護取
しまり な ちゅう せいかつ ほ ごほう で き いぜん おんけい ふくし ぐたいれい いま はなし ねんのためしるす
締を為すこと。（注：生活保護法が出来る以前の、「恩恵としての福祉」の具体例です。今の話ではない。念為記）